

授業科目名	慢性看護実習			担当教員	山本 孝治、西山 陽子、 中村 光江
開講年次	2年後期	セメスター	4	時間数(単位数)	135 (3)
必修選択	必修	授業形態	実習	使用教室	
授業の目的	慢性期にある対象の特徴や日常生活への影響を理解したうえで、看護実践を通して、継続的な支援を必要とする対象のニーズを把握し、個別性に応じた看護を提供できる能力を獲得する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病を持つ対象者の健康問題に対して適切に看護を展開できる。 2. 慢性病を持つ対象者とその家族に必要な支援について考えることができる。 3. 包括的医療における看護の役割を理解し、多職種との協働について考えることができる。 4. 分析的に自己を捉え、自主的に実習に取り組むことができる。 				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習目標 <ol style="list-style-type: none"> 1) 慢性病を持つ対象者の健康問題に対して適切に看護を展開できる。 2) 慢性病を持つ対象者とその家族に必要な支援について考えることができる。 3) 包括的医療における看護の役割を理解し、多職種との協働について考えることができる。 4) 分析的に自己を捉え、自主的に実習に取り組むことができる。 2. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習期間 <ul style="list-style-type: none"> [1クール目] 2019年1月21日(月)～ 2月7日(木) [2クール目] 2019年2月6日(水)～ 2月26日(火) <p>* 病院実習は 12 日間</p> <ol style="list-style-type: none"> 2) 実習場所 福岡赤十字病院、嘉麻赤十字病院、山口赤十字病院、原三信病院、那珂川病院、福岡聖恵病院、さくら病院、宗像医師会病院、やなせ内科医院、本村内科医院 他 3) 実習の進め方 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学内オリエンテーション (2) 事前演習 臨地実習において実施可能な看護援助及び研鑽が必要な看護技術の演習を計画・実施・評価する。 (3) 施設での実習 入院中あるいは外来受診中の対象者1人を受け持ち、看護を実践する。 (4) 学内実習 学内カンファレンス・面接等を通して実践を振り返り、現象を探究する過程を経て、看護に対する自身の考えを深める。 		<p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「病みの軌跡」と「看護過程の展開方法」の振り返り ・主として「慢性看護Ⅰ・Ⅱ」、「人体の構造と機能」、「疾病と治療」における知識や理解に関し、自己の課題を克服するための学習 ・行動変容を促す看護技術 <p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち対象者の疾患および病態生理に関する知識の整理 ・対象者への看護実践の振り返り（指導内容と指導方法を含む） ・実習で明らかとなった自己の課題への取り組み 		山本 西山 中村

先行履修科目	看護過程の展開実習				
テキスト	特に指定しない。				
参考文献	既習科目のテキスト、資料、他				
メッセージ	慢性病を持つ人は増加し、一人が複数の慢性病を持つことも一般的になってきました。病気や障害とともに生きる過程を全人的に理解し、長期的な視点を持って個別性に応じた看護を学びます。病気と折り合いをつけつつ、その人らしく生きていくことについて、ご本人や家族とともに考えましょう。対象者の「病みの軌跡」に対する理解を看護実践にも活かしてください。				
科目の位置づけ	医療施設における3回目の実習である。レベルⅢ実習として、慢性看護Ⅰ・Ⅱおよび看護技術Ⅰ～Ⅲをはじめ、既習の知識や技術を活用し、慢性病とともに生きる人への看護実践を学ぶ。長期的な健康問題を考えるため、狭義の病気や一時期の健康に注目した症状緩和や生活指導に終始するのではなく、対象者の人生や価値観および病気の意味を理解するよう努力することが必要となる。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
	○	○	○	◎	○
評価方法	実習目標の達成度(80%)、課題レポート(15%)、実習態度(5%)				